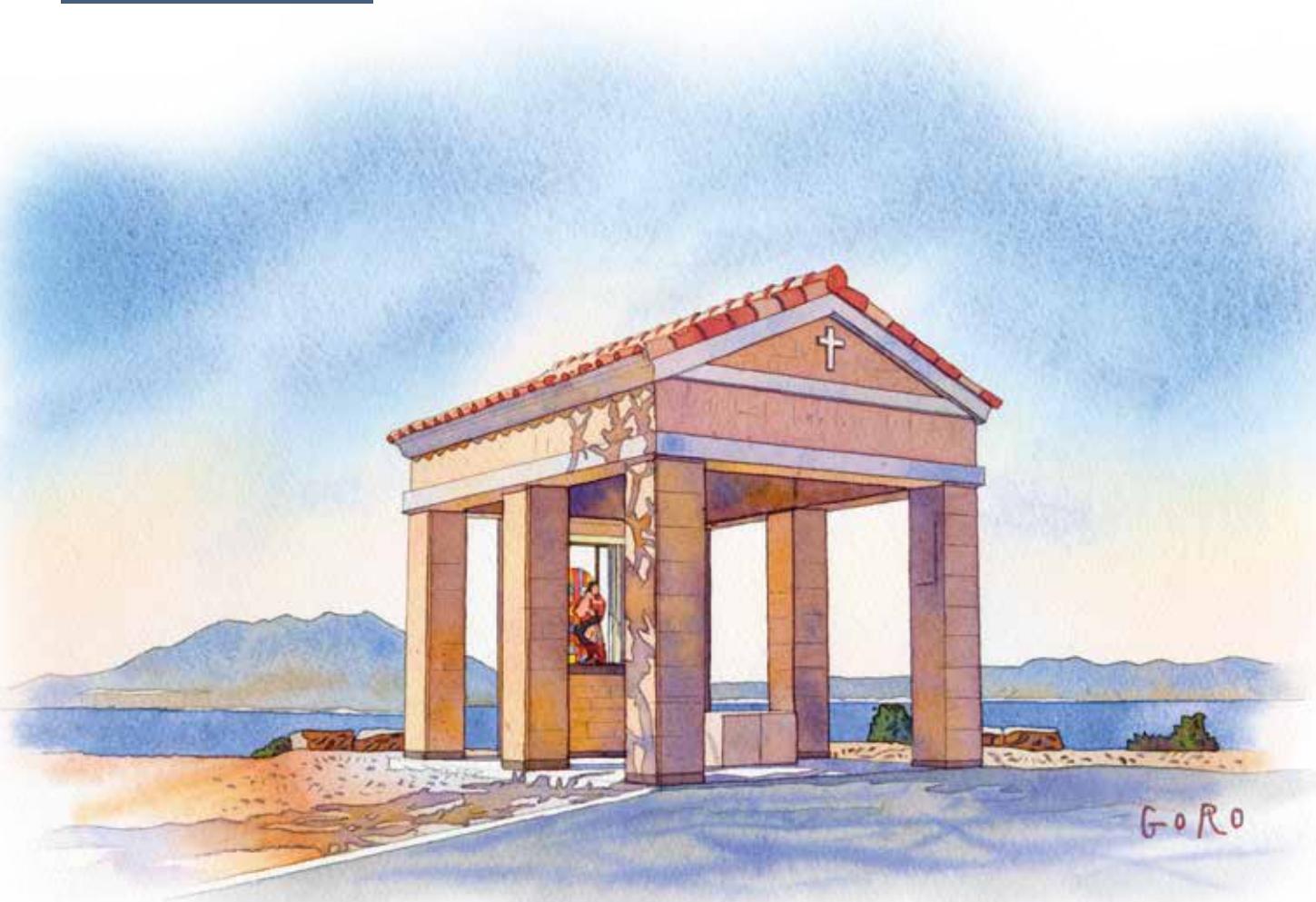


ちいさな建設

錦江湾を望む
日本一小さな礼拝堂



開かれた祈りの場

田の前には活火山、桜島。背景に錦江湾（鹿児島湾）の北側奥の海景色がぐるりと連なる。大隅半島の霧島市福山の山手にある寒山公園から望む絶景だ。

一九八一年、高さ一二㍍の十字架を立て、寒山公園をつくったのは、医師として故郷福山の医療、福祉に尽力した故松下兼知さんだった。その十字架の傍らに、二〇一二年三月、「錦江湾を望む日本一小さな礼拝堂」が建てられた。建築面積は一二平方㍍。ギリシャ神殿をモチーフとし、地元産の素朴な表情の加工木石を用い、海に向けて祈るように、

ステンドグラスと木彫・手彩色の聖母子像が置かれている。建主は山麓の松下美術館長・松下兼介さん。父は初代館長でもある兼知さんだ。

二代にわたる祈りの場が生まれたきっかけは、兼知さんが一九五九年にイタリアを旅行し、サレルノの丘に大きな十字架が立ち、湾を見下ろす景観に感動したことだ。サレルノも福山も夕陽が海に映える美しさは格別である。小さいながら、宗派を問わず、心を癒す場として訪れてほしいと兼介さんは言う。

アクセス

松下美術館(鹿児島県霧島市福山町福山771番地)から車で10分ほど
訪れる際には松下美術館に連絡が必要